政務活動費　　活動実績報告書　　10 番川口堅志

件　名	自治体視察研修
使　途	1 調査研究費　　②研修費　　3 要請・陳情活動
金　額	別紙
期　日	令和 8 年 9 月 30 日（水）　～　10 月 3 日（金）
場　所	長野県　①小谷村　②白馬村　③小布施町
目　的	定住政策　空き家バンク　交流　街づくり研修
参加者	川口堅志　　栗原吉平
概　要	①定住政策の実施・実績　小谷村地域づくり振興課主査　小林慶士様対応 1　入居日から 3 年未満の間に、補助対象となった空き家から転居しないこと。 2　村が本申請において、審査する際に必要な事項・内容について調査することを承諾すること。 3　申請書類の記載内容に偽りがないこと。 4　空き家所有者の 3 親等以内の親族関係でないこと。 5　市区町村民税等の滞納がないこと。 6　フェア等で小谷村ブースへ 33 組が立ち寄り、さらに興 味を持ち、実際に来村する人が増えた。（来村者 5 組 内移住予定者 3 組が移住）年 4 回で開催をした田舎暮らしツアーでは、累計 48 名 が参加し、リピーターとなる参加者も増え、移住への 意欲が高まっているように感じた。（参加者の内、移住予定者 1 組）移住者・移住希望者合計で 65 名からのアンケートを取 得し、さまざまなニーズを把握できた。今年度、移住フェアでの移住相談や役場での移住相談 件数が 55 件と増加し、そのうち 6 組が移住した。 ②空き家バンク 1　空き家・空き地バンク情報の登録・公開物件所有者の方から空き家・空き地の登録申込書を受領後、現地調査等を行った上で、物件情報を本ページ及び長野県の空き家・空き地バンクサイトへ掲載します。楽園信州空き家・空き地バンク（長野県移住者向け空き家ポータルサイト） 2　空き家・空き地バンク利用登録 気になる物件が見つかり、制度の利用を希望する方は、「白馬村空き家・空き地バンク利用申込書」を白馬村役場総務課に提出してください。 申込書の内容確認後、村が協定を結んでいる白馬村空き家・空き地バンク会に加盟している担当不動産事業者に利用申込があった旨を連絡します。 3　物件詳細確認・内覧 空き家・空き地バンク会に加盟している担当不動産事業者と物件詳細の確認や内覧を行います。 物件について気になることがあれば、しっかり担当不動産事業者に確認しましょう。 4　交渉・契約 白馬村空き家・空き地バンク会に加盟している担当不動産事業者が交渉・契約の仲介を行います。

	③お布施町北斎館の建設と来訪者の増加　お布施町職員　志賀様対応 町開発公社による宅地分譲は、若い世代の人口流入とともに、まちづくりの原資となる新たな余剰金を生み出しました。 1976年、その資金を活用して「北斎館」が建設されます。晩年に小布施で多くの作品を残した葛飾北斎ですが、1960年にはウィーンで開催された世界平和評議会の席上において世界の文化巨匠として顕彰され、1966年にはソ連プーシキン美術館などで「葛飾北斎展」が開かれるなど、世界的な評価を確立しつつありました。一方で、町内に残る北斎作品の研究や保全は大きな課題となっていました。そうした状況の中で設立されたのが、北斎館だったのです。北斎館が開館すると、地方の小さな町にできたこの美術館の存在が全国的な話題となり、初年度に3万4000人の来場者を数えるなど、町に多くの来訪者が訪れるようになります。また、来訪者が増える中で、栗菓子屋などの民間企業が中心となり、レストランや商店が次々と開業するなど、来訪者を受け入れる新しいまちづくりが急速に進んでいきました。1980年代には、高井鴻山記念館や小布施堂周辺の敷地を中心に、行政を含む6地権者による「町並修景事業」が始まり、「栗の小径」など、現在の小布施町を象徴する空間の一つが形成されていきます。古いものを生かしながら現代の生活にあった暮らしを実現する、住む人・訪れる人が心地よく過ごせる町並み空間が形成されることで、町民の景観に対する意識が高まり、「内は自分のもの、外はみんなのもの」のコンセプトが、小布施町全体に浸透していったのです。
所　管	定住政策・空き家バンク等はどこも同様の政策でしたが、小谷村の新築補助金は250万円と思い切った政策であった。白馬にては観光客の受け入れはアルプスの景観が人の心を引き付けるもので八女市には真似出来ない街づくりであった。さらに冬季のスキー客は国内外からの途方もない集客でこれもまた八女では同様なまちづくりは不可能と思われる。 小布施町のまちづくりは思い切った政策で、1万人足らずの町に120万人の観光客が訪れるとのことでした。北斎館の建設を機に栗とりんごとブドウの町づくりで、徹底した町の後押しの基、農業・商工業者と市民が一丸となり街づくりに取り組んでいる模様が肌で感じ取れるお布施町でした。 このような街づくりは八女市でも、茶・いちご等題材は無数にあることから、国民が知りえる人物で話題になる文化の象徴を発掘することが年間通じて来市頂けるものである確信しました。


冨嶽三十六景
神奈川沖
浪裏